



新宿区立四谷小学校
校長 石井 正広

「忘れかけていたあたりまえだけど大切なこと」

校長 石井 正広

夏の暑さの中で元気に育ったゴーヤの実が、登校してきた児童を迎えています。主事さん方の手入れのおかげで、例年以上に立派な緑のカーテンになりました。

さて、今年もコロナ禍のために出かけることを控え、家庭で過ごすことが多かったのではないのでしょうか。私も、自宅でオリンピック放送を見たり、読書や映画を鑑賞したりしてゆったりと時間を過ごしました。オリンピックでは、金 27、銀 14、銅 17 と日本選手の大活躍に勇気をもらいました。また、「世界ともだちプロジェクト」で四谷小が応援するフランスは金 10、銀 12、銅 11、マレーシアは銀 1、銅 1 のメダルを獲得し、外国の選手の応援も関心をもちすることができました。それ以外に夏休みに印象に残ったことを二つ紹介します。

まず、「ソ満国境 15 歳の夏」という映画です。

1945 年夏、日本は敗戦国になりました。敗戦直前にソ連と満州の国境付近に置き去りにされた 120 名の 15 歳の中学生たちが 300 km の道のりを必死に歩いて生き延びた苦難の実話をもとに製作された映画です。

食べ物もなく歩き続け、石頭村のはずれで、身も心もボロボロな状態で野宿する中学生を村人が助けます。一つの家に 4、5 人ずつ泊めて食事を提供し、つい先日まで、敵だった日本人を助けたのです。ある中学生が「どうして私たちを助けてくれたのですか？」と聞くと村長が答えます。「困っている人がいるのに、助けない訳にはいかない。私たちもこれまでに誰かに助けてもらってきたから当たり前のことです。」中学生は、感謝の気持ちを伝えるために、60 年後に石頭村を訪ねています。

次に、オリンピックでの話です。ジャマイカのハンスル・パーチメント選手がバスを間違えて競技開始時刻に遅れそうになっていたところ、大会ボランティアスタッフの一人河島ティヤナさんがタクシー代を渡しました。ハンスル・パーチメント選手は男子 110m ハードル走に間に合い、見事に金メダルを取ることができました。ハンスル・パーチメント選手は次の日、同じ場所を訪ね、河島ティヤナさんを見付け、感謝の言葉を伝えています。ジャマイカからの感謝状をもらう際に河島ティヤナさんは「自分ができることをしただけです。彼に後悔してほしくなかったから。」と答えたそうです。

二つの話は、助けた人は「当たり前のことをしただけ」と言い、助けられた人はもう一度お礼を伝えにいきます。当たり前のことを忘れかけていたことを思い出した夏の日でした。

8・9月の生活目標

規則正しい生活をしましょう

新しい気持ちで2学期の目標を立て、
健康観察カードをしっかりと記入しながら
生活のリズムを整えていきましょう。

【新型コロナ感染拡大の状況を受けての 新宿区の対応方針】

新型コロナウイルスによる感染が急増し、東京都でも非常事態宣言が9月12日まで延長されています。新宿区教育委員会の方針に基づいて、四谷小学校では次のように予定を変更・再検討しています。

今後も感染防止に最大限配慮しながら、実施可能な教育活動をすすめてまいります。

■ 8月25日（水）の始業式から予定通り、2学期を開始します。

■ 6年日光移動教室は、区の方針により中止となります。

■ 5年女神湖移動教室も、区の方針により中止となります。

■ パラリンピック学校連携観戦は、新宿区の方針が出ていないため、実施は未定です。

■ クラブ活動は中止としますが、発育測定・都学力調査・保護者会は実施する予定です。

3年生 スーパーマーケット見学での発見！！

3年担任

3年生は、社会科「わたしたちの暮らしと販売」の学習でスーパーマーケットの見学に行きました。

スーパーマーケットの中にある商品を売るための工夫を、子どもたちは予想を基に探します。値札や商品の並べ方を見て「メガ盛りがある」「種類が多い」とグループで話し合い、自分たちで調べる姿がたくさん見られました。

見学の最後には、子供たちからの事前のインタビューをもとに、店長さんからお話を伺いました。タブレットをもって動画を撮ったり、一生懸命メモをとったり、初めて知るスーパーマーケットの秘密に子どもたちは、さらに疑問をもち、興味津々でした。学校に戻ってからも、「スーパーにもう一度見学しに行きたい！」と発言する子もいて、とても有意義な見学の時間となりました。

見学や教室での学習で調べてきたお店の工夫は、お店の売り上げを高める工夫につながっていることを知りました。夏休み中は、自分がよく行くお店の工夫を調べ、ポスターにまとめています。2学期は、調べてきたお店の工夫を紹介して、どのような良さがあるのか考えていきたいです。



「ありがとう」の言葉

主任養護教諭

2学期が始まりました。夏休みモードから、ふだんの学校生活のリズムを取り戻して、コロナに負けず元気に登校してほしいと思います。

さて、新学期の始まりということで、「ありがとう」という言葉について考えてみました。

人に感謝の意を表す時に使う、とても響きの良い素敵な言葉です。人から「ありがとう」と言われると、自分のしたことを喜んでくれたのだと嬉しい気持ちになり、思わず笑顔になります。

「ありがとう」を伝える時、その言葉を使う人の微笑みがついてきます。そして、言われた方も微笑みを浮かべます。「ありがとう」という言葉で、微笑みのやり取りができ、人間関係を温かくしてくれます。

1学期末に1年3組の代表の子どもたち数人が、保健室見学のお礼にお手紙を書いて届けてくれました。自分たちの心からの「ありがとう」を伝えようとする子どもたちの姿に、私の心も温まり笑顔になりました。

私たち大人も「ありがとう」の言葉を積極的に使い、家庭の中でも、地域の中でも、学校の中でも、もっともっと「ありがとう」という素敵な言葉が行き交う2学期にしたいものです。

新型コロナウイルスの影響によるご不安等がありましたら、担任やスクールカウンセラーにご連絡ください。

【連絡先】学 校：03-5369-3776
S C 直通：03-6380-0066
(平日 7:30～18:00 の時間帯)

